



第 6 回日本伝道会議 (JCE6、2016 年 9 月神戸) 青年プロジェクトの一環として開催されたフットサル大会の参加者たち

新しいぶどう酒を注がれる主に信頼して

新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れなければなりません。また、だれでも古いぶどう酒を飲んでから、新しい物を望みはしません。『古い物は良い。』と言うのです。

ルカの福音書 5 章 38、39 節

やむを得ぬ事情で青年委員に加えられたのが JCE6 の直前で、まだ日が浅いものですが、これもまたやむを得ない状況で委員長をお引き受けすることになってしまいました。どうぞ青年委員会のために、今まで以上にお祈りを宜しくお願い申し上げます。

特に今年は、11 月 22 ～ 24 日の三日間、第二回日本青年伝道会議 (NSD II) が、開催されます。代々木オリンピックセンターで行われた第一回の時よりも、規模も期間もコンパクトになりますが、22 日 (木・平日) 午後から御茶ノ水 OCC ビルでスタートし、23 日 (金・祝) は終日市川の山崎製パン・総合クリエイションセンターにて、メイン集会とともに分科会等の細やかな営みを、24 日 (土) は中高生・大学生・社会人の世代別に分かれて、それぞれの場所で、それぞれのニーズに合わせた営みを計画しています。詳細はお手元にチラシや案内を届けますので、そちらをご覧ください、是非青年を送り出していただければ幸いです。

来年は日本でラグビーの W 杯が開催され、再来年は東京オリンピック、この機会をフルに伝道に生かすため、スポーツミニストリーが全国的・全体的な働きを始めていますが、

これも特に青年世代と深い関わりのある分野です。ここ数年は、青年宣教に関して大きな影響を与える勝負の時で、延いては日本のキリス

ト教界の次世代を左右する数年となるかもしれません。言い換えると、主が日本に与えてくださった大きな恵の機会でもあります。どうぞ格別にお祈り戴きたく、重ねてお願い申し上げます。

青年委員長といっても、同級生達には孫が生まれ始めました。青年たちから見れば明らかに旧世代の人間です。それは悪いのではなく、良い物です。年月を掛けて熟成された良いぶどう酒を中に入れた素敵な皮袋が、主の尊い憐みと恵によって造られてきました。更に年月を重ねて造られた諸先輩達の皮袋はブランド物と言っても良い程の、まさにヴィンテージです。素晴らしく良いぶどう酒が入った皮袋ですが、しかし確かに古いのです。新しいぶどう酒が注がれると、残念ながら張り裂けてしまいます。青年宣教に携わる時には必ず感じる現実、歯がゆくもあり、寂しくもあります。それらを乗り越えて、新しい皮袋を持つ彼らと、彼らに新しいぶどう酒を注がれる主に信頼して、自分の時代にこだわることをやめ、青年はこういうものだという定義を押しつけず、彼らに十分なスペースを与えて、祈りながら見守る、という姿勢を持ちたいと思います。青年たちが自分の皮袋の口を主に向かって大きく開けていけるように、祈りつつ協力して行こうではありませんか。



薦田聰毅
JEA 青年委員長
イマヌエル堺キリスト教会牧師

目次

巻頭言	1
宣教委員会各部門の働き 国内外国語教会ネットワーク	2
宣教フォーラム@ KOBE 隣人シンポジウム	3
青年担当者サミット NSD2 案内	4
流れのほとり 天皇の代替わりに備える	5
聖書信仰の成熟を求めて 聖書信仰と信教の自由	6
ネパール支援報告 JEA 創立 50 周年感謝会	7
JEA アップデート	8

宣教委員会各部門の活動

中西雅裕 JEA 理事・宣教委員長
ホーリネス教団 横浜教会

★三部門に分かれた宣教委員会は活発に活動しています。

(1) **宣教フォーラム部門** 2017年9月25～26日に三宮研修センターで「日本宣教のこれからを考える～JCE6から生まれる希望～」というテーマで宣教フォーラム@KOBEが行われ、約90名参加がありました。JCE6各プロジェクトからの活動報告があり、多様な働きの展開に励まされました。今年は9月24～25日に名古屋・東海地区で行う宣教フォーラムの準備が進められています。

(2) **宣教研究部門** 5月21日に教団・教派、宣教団体の宣教研究及び戦略部門担当者が集まる第2回宣教研究部門担当者会議を開催し、次世代宣教ネットワークをテーマに活発な話し合いがなされました。またJCE7に向けて以下の三点について何らかの提言を出したいと願っています。

① **次世代を育てる宣教インフラの整備（2017-2019）** 女性委員会・青年委員会や子ども・青年・ファミリーミニストリーの各プロジェクトと協力して、学びや意見交換を行い、提言の方向性を検討し、それに関わるデータ収集のためにアンケートを実施する予定です。

② **ネットワークにより強化される地方伝道、都市伝道（2018-2020）** 日本各地の放送伝道・地域牧師会・宣教団体・次世代育成・災害対応・福祉関係・音楽等の分野別に「地域ネットワークリスト」を作成して、活用していくとしています。

③ **教会再生・増殖への道筋の明確化（2020-2022）**

(3) **異文化宣教ネットワーク部門** 海外で日本語で礼拝を捧げている人々（在外日本語宣教従事者の集い、Global Japanese Christian Forum）と日本国内で自分達の言葉で礼拝を捧げている外国人の人々（在日外国語宣教ネットワーク、Ethnic Ministry Network Japan）を結びつけるために「ひろば・グローカル」を開いて、ネットワーク作りを行っています。EMNJでは11月3日に日本で自国の言葉で礼拝を捧げている各国のクリスチャンが一堂に会して礼拝を捧げる集会を企画しています。

(4) 部門を超えた働きである**宣教シンポジウム**は2月17日に「隣人の話を聞いてみませんか」というテーマで4回目の集会を行いました。

国内外国語教会のネットワーク発足

Ethnic Ministries Network in Japan (EMNJ)

福田崇 ひろばグローカル世話人
国際ウィクリフ聖書翻訳協会霊的大使
JECA 宣教教会

◎歴史的な背景：

2000年に開催された日本伝道会議の時から、在外日本語教会のネットワーク、リターニーへの取り組みなどが継続的に推進されてきました。2016年の第6回日本伝道会議で、在日の諸外国語による教会のミニストリーについて、分科会がもたれました。二つの動きは、日本・日本語というくくりで見ると、主がなしておられることの全体像を把握するには、大事なミニストリーであると思います。日本において日本語を話す、日本国籍の人によってなされる働きばかりではなく、日本において諸外国語によってなされている働きは、大事な一部であると思います。

フィリピン教会の、Japan Council of Philippine Churches (JCPC) は、すでに長い間、7つほどのグループの連合体として、40ほ



どの地域教会が属しています。三月には、毎年、Bless Japanという数百人規模の断食祈禱会を開催しています。JCPCは、フィリピン福音同盟の正式のメンバーです。

◎現在の到達点：

昨年の10月24日に、JCPCが呼びかけて、他の諸外国語によるネットワークのリーダーたちとの集いが開催されました。それぞれのミニストリーの歴史・祝福・チャレンジが分かち合われました。第二回目の集いが、今年の1月9日に開催されました。

フィリピン人教会、インドネシア人教会、ネパール人教会、ブラジル人教会、中華教会、イラン人への働き、モンゴル人への働き、などです。

この第二回目の集いで、秋にジョイントで集まろうということになりました。2月27日に準備会を持ちました。暫定的に11月3日に集まることになりました。礼拝、各ミニストリーの紹介、ミックスの小グループでの分かち合いと祈りのときが三つの柱です。

◎エスニック・ミニストリーの祝福とチャレンジ：

それぞれのミニストリーに携わっているリーダーたちは、共通のチャレンジをもっています。礼拝場所の確保の課題、次世代への信仰継承の課題です。またメンバーたちのビザの問題、仕事の問題など多くのチャレンジがあります。

日本にきて本国では名目的なクリスチャンであった人々が、困難の中で主に立ち返るケースが多くあります。また本国では他の主要な宗教の環境であったのに、日本で初めて福音に触れる方々も多くいます。

宣教フォーラム@ KOBE

小平牧生 宣教委員（宣教フォーラム部門）
基督兄弟団 西宮教会

JEA 宣教フォーラムは、①日本伝道会議（JCE）と次の JCE をつなぐこと、②地域開催によってアナログ・ネットワークをつくること（JCE プロジェクト、教団教派、地域）、そして③地域の教会と JEA との交わりを深めることという、三つの大きな目的をもって毎年秋に開催されています。

2017 年度の宣教フォーラムは、9 月 25 日から 26 日、各教団教派・宣教団体の関係者、そして神戸から、合計 60 名の参加者によって神戸三宮研修センターで行われました。25 日の午後は、開会礼拝の後、前年に神戸で開催された JCE6 を受けて、13 の「プロジェクト」と、神戸で始動している「コイノニアネットワーク@神戸」の一年目の報告と今後の目標と計画が説明されました。その後のコイノニアの時間では、各プロジェクトがそれぞれの目標に向かって活動を進めるだけではなく、それらが JCE7 に向かって相互にどのように連携していくのか、また各地域にどのように展開して広がっていくのかなどのテーマを思い描きながら、話し合いが進められました。

夜は「日本宣教のこれからを考える～JCE6 から生まれる希望～」というテーマで、一般公開の集まりが行われました。神戸市内の信徒の方々も加えられて約 90 名の参加者でした。JCE6 プロジェクトとして発行された「データブック」から、JEA 宣教委員会が JCE7 に向かって取り組もうとしている三つのテーマ、すなわち（1）次世代を育てる宣教インフラの整備、（2）ネットワーク構築による地域宣教の推進、（3）教会再生・増殖への道筋の明確化について、具体的提言への取り組みについてのプレゼンテーションが行われました。また、それらを

実効性のある研究提言とするために、宣教委員会の宣教研究部門と各教団・団体の担当者会議の連携について、



そして JCE7 に向かっての作業スケジュールが発表されました。

二日目は、JCE7 に向かって JCE6 を振り返る時をもちました。JCE の参加者と JEA 加盟教団に出されたアンケートの報告に続いて、開催地の神戸の委員会が何を目ざし、何を実現し、何を課題として残したのか、またプログラム局はどうか、それぞれの担当者の発表を受けてコイノニアで話し合いました。

今年 2018 年の宣教フォーラムは、9 月 24 日（月・祝）から 25 日（火）に、在日大韓基督教会名古屋教会を会場に開催されます。JCE7 に向かって、「東海を知る」をテーマに、東海地域で築きあげられてきた「ゆるやかな宣教協力」から多くのことを学ばせていただきたいと思います。若者セッションや JCE6 諸プロジェクトによる分科会も行われます。JCE7 に向かう大切な宣教フォーラムです。ぜひ期待をもってご参加いただきますようお願いいたします。【P.8 に案内】

「隣人シンポジウム」振り返り

神谷典孝 宣教委員
JECA 横浜さちが丘キリスト教会

2 月 17 日（土）に行われた宣教シンポジウムは隣人シリーズの第 4 回目。このシリーズは ISIL（現 IS）による日本人拘束・殺害事件など、イスラム過激派と呼ばれるグループの引き起こす残忍なニュースが世界中を駆け巡る中、開始されました。その時からのコンセプトは今も変わらない「ムスリム（＝イスラム）の人たちも神様に愛されている私たちの隣人。その人たちと具体的ななかかわりをもつ隣人となろう」というものです。

今回のシンポジウムでは、まず日本でムスリムからクリスチャンとなった G 兄と、彼を信仰と生活の両面で支え導かれている M 師が、自身の体験を中心に話されました。そしてその後で、海外でのムスリムの人たちとの関わりから彼らに対する誤解が解け、彼らの救いのため働かれるようになった K 師が、お二人の話を受けて全体の祈りを導かれるといった形で



行われました。G 兄は日本でお金を稼ぐため、仕事がはしくてカソリック教会に行きましたが、そこからさまざまな辛い経験の後 M 師と出会い、「お金よりも大切なものがある」とわかりました。」と

話すクリスチャンとなりました。G 兄を導かれた M 師は宣教師としての働きを終え帰国した後も、日本にいる外国人たちに重荷を持ち、積極的に関わりをもとうとされて来ました。「別にムスリムの人たちに重荷があったわけではありません」という M 師ですが、「シンプルに神様の導きに従う」ことを旨とする中で G 兄と出会い、聖書のことばを伝える傍ら、彼のために生活面での様々な面倒を見られるようになります。宣教師時代、町で非行に走りがちな子どもたちのため寮を作り、宣教師としての働きの傍ら、その子たちと格闘するような日々を過ごされていた先生を思い出します。そして、お二人の話を受けて祈りを導かれた K 師は「愛の反対は恐れ。恐れなくて彼らと関わりましょう。日本にいる難民やビジネスマン、留学生や旅行者のムスリムの友となって、愛を分かち合いましょう。」と参加者に呼びかけられました。

今回のシンポジウムには、G 兄と M 師の応援のため、現在 M 師が牧会されている教会の方たちが何人もご参加くださいましたが、そこに、隣人シリーズが目指してきた姿の一つがありました。日本のクリスチャンと外国の方たちが主にある愛のなかで隣人となることです。今年から来年、そして 2020 年と、多くの外国の方たちが日本にやって来られるようになることが予想されます。私たち日本の教会は日本人に神様の愛を伝えると同時に、身近にいる外国の方たちのためにも祈り、重荷を持たなければならぬ時代になってきたと思います。

超教派青年宣教団体サミット Road to NSD2

大嶋重徳 青年委員
キリスト者学生会 (KGK)

JCE6 の恵みを受け、各教団教派の青年担当者サミットを 2017 年 5 月に開催しました。青年担当者の抱える葛藤や悩みを分かち合い、また地域特有の新たな取り組みを知ることによって大きな励ましを受けることとなりました。

今回は JEA に加盟している青年宣教に関わる超教派団体のスタッフの方々をお招きし、日本の青年宣教の今後を考え、互いの働きを共有し、祈り合う機会をもととして、2018 年 1 月 22 日 (月) に OCC8 階チャペルにて超教派青年宣教団体サミットを開催しました。当日は One Hope、hi-b.a.、7 MEDIA、CCC、OCC 宣教部、国際ナビゲーター、KGK、Word of Life、CSK、JISP、JCFN、4/14 窓、JEMA、CCI の 14 団体から 60 名近い参加者が与えられました。

目的は、青年宣教のビジョンを分かち合うネットワーク作り。NSD II に向けて道筋を作ることにありました。葛田聡毅 JEA 青年委員会の委員長あいさつから始まり、参加団体の団体紹介をしました。JEA 総会でお会いしながらも、互いの働きを分かち合う機会がなかった中で、働きを知り合う非常に良い機会となりました。また昼食をはさみ、そこでは女性スタッフたちの交わりにも花が開き、良き交わりにもなりました。

午後は JEA 品川総主事から基調講演「日本の青年宣教を考える」がなされ、青年宣教が緊急の課題であることが分かち合われ、大きなチャレンジと励ましを受ける機会となりました。

さらに超教派団体の抱える共通のテーマに分かれて、6 つのディスカッショングループをもちました。「①諸教会とのコミュニケーション」では、諸教会とのやり取り、また牧師との面会アポのとり方など、JEA 青年委員の牧師も加わり、実際のアドバイスもあり非常に具体的な内容が話し合われました。さらに諸教会、支援者からの支援、祈り、献金を依頼する「②サポートレイズ」では、ミニストリーをどのように紹介をし、サポートを広げていくかが話し合われました。また「③新人スタッフトレーニング」では、スタッフ研修の項目、内容が話し合われ、超教派団体に働くためのスタッフケ

アについて各団体から分かち合いました。さらに「④リーダーシップ」ではリーダーの抱える重い責任にどのように応える



か、さらに次世代のリーダーシップの育成についても真剣な話し合いがなされました。またミニストリーの推進のために欠かすことのできない「⑤事務局業務」では、宣教的アドミニストレーションのあり方、また事務局スタッフの霊性、さらに孤独についても話し合われました。そして 6 つ目は「⑥宣教師受け入れ相談 (宣教師にまつわるトラブル対応)」を、JEMA に加盟している宣教師たちの現状を知り、今後の宣教師との宣教協力のあり方について話し合われました。どのテーマも超教派団体に必要なテーマであり、具体的な話題が飛び交い、また実際の助言を互いにすることができたのは、大きな収穫であったように思います。

参加者からは「新鮮な集まりだった。」「20 年前よりも超教派の団体が増えている事に気づいて感謝だった。」「お互いのことを知る機会となって感謝だった。」「集まってお茶をしてコミュニケーションをすることで通じ合えるものがあった。」「苦労を分かち合う機会となって励まされた。」という声があがりました。また青年委員からも、「皆さんがうれしそうに励まされる機会になった。これからも超教派の働きを大事にしていきたい。」「各団体、団体と教会をつなげること、ネットワークを作ることが、JEA の役割であることを再確認した。」という声があがりました。

いよいよ NSD2 が 11 月に開催されます。青年担当者サミット、超教派スタッフサミットも再び開催される予定です。また青年大会の内容も非常に充実したものとなりそうです。ぜひ期待して、また祈って、大会にご参加いただけますようお願いいたします。

第 2 回日本青年伝道会議 (NSD2) が開催されます

テーマ：「**神の国マインドに生きる**」

テーマ聖句：「**時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。**」(マルコの福音書 1 章 15 節)

日時：2018 年 11 月 22 日 (木)・23 日 (金・祝)・24 日 (土)

場所：お茶の水クリスチャンセンター、山崎製パン・総合クリエーションセンター、hi-b.a. センター

主催：JEA 青年委員会

分科会：①見えない進路と神様、②仕事と信仰の間の私、③大切な友人・家族にキリストを証しするには、④76 億人に福音が届くまで、⑤聖書が教える性・恋愛・結婚、⑥異端・カルトの予防と対策、⑦クリスチャンキャンプの始め方、⑧次世代に「刺さる」メディア活用術、⑨次世代に信仰を伝える。

オプションタイム：A. スポーツ大会、B. ボードゲーム、C. 賛美集会 + 横山大輔・和子ライブ、D. WTP(What The

Pastors!!) 特別収録、E. お茶会 - 幸せな家庭・家族について考える。

★申込方法、プログラム詳細、最新情報は **NSD2 ウェブサイト** (<https://nsdnet.org/>) をご覧ください。

★開催のために、約 250 万円の予算を組んでおり、そのうち 80 万円を皆様からの特別献金として見込んでおります。ご協力よろしくをお願いいたします。

【振込先】ゆうちょ銀行 記号:10180 番号:5469681
口座名義：ニホンセイネンデンドウカイギ



流れのほとりて

No.23

「リベカの乳母デボラが死に、ベテルの下手にある榎の木の下に葬られた。それで、その木の名はアロン・バクテと呼ばれた。」(創世記 35:8)

昨年6月に開催された JEA 心のオアシスリトリートの閉会礼拝で、「乳母デボラ」にスポットを当ててメッセージを取りつがせていただきました。彼女は、ヤコブの母リベカがイサクの元に嫁ぐに際し、同行した女性です。(創世記 24:59) その後のデボラの人生の歩みは聖書には記されていませんが、彼女はリベカにぴったり寄り添いながら、アブラハム家、イサク家、そしてヤコブ家にひたむきに仕え、それぞれの家庭問題、人間関係、何よりも信仰に関する事柄に真摯に関わり続けたのではないかと思います。彼らの苦悩や対立や決断をじっと見守り、聞き役に徹し、必要な時には犠牲的に「破れ口」に立ち、最も良きカウンセラーとして静かに生きたのです。

乳母デボラの信仰は、おそらく孫のようなヤコブにも多大な影響を与えたことでしょう。ペヌエルの体験(創世記 32 章)、エサウとの再会(同 33 章)、そして一族を伴ってベテルに住み着いた後、ヤコブは、乳母デボラの死に際して、深い悲しみの中で丁重に彼女を葬りました。(同 35:8) 一人の名も無いほどの高齢の女性にこれほどまでに敬意を払い、最期を見届けたということは、彼女がいかにひたむきに信仰一筋に生きた女性であったかという証しでありましょう。

今年、JEA 女性委員会は 28 年目を迎えます。初代委員長の湊晶子先生は、「福音宣教に生きる女性」をテーマに、女性が一人の人格として生きることの大切さを聖書から紐解

大嶋博道 女性委員会担当理事
日本フリーメソジスト教団 神戸ひよどり台教会

き、歴史の中で宣教を担った女性に焦点をあてて語り続けられたとお聴きしますが、まさに、今こそ女性が日本のそして世界の福音宣教の成長と拡大を担うキーパーソンではないかと確信しています。

2018 年度の JEA 女性委員会の活動に心から期待しています。担当理事として非力ながら、新委員の皆様と共に女性委員会の働きを担うことができれば幸いです。祝福をお祈りいたします。

新委員自己紹介

宗形友子 女性委員 / 流山福音自由教会

この度、女性委員の働きへと導かれました宗形友子と申します。これまでは自分の属する群れと教会以外に、あまり目を向けることはありませんでした。けれどもこの働きにわずかですが関わり、主の素晴らしさ、恵の深さを、新鮮な思いで学ばせていただいています。委員の姉妹方との交わりも、本当に感謝です。

教派を超えた主イエス・キリストのみからだなる教会としての働きに、喜んで仕えさせていただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。



JEA 社会委員会

天皇の代替わりに備えて

須田毅 社会委員
JECA 西堀キリスト福音教会

JEA 社会委員会では天皇の代替わりについて改めて学習する必要を覚え、その助けとなる資料作成を計画している。現天皇は 2018 ~ 19 年には退位する見込みとのこともあり、作成を急がなければならないと考えている。

約三十年前、昭和天皇の死去に伴い、現天皇への代替わりがあった。神道行事が国の公式行事とされることについて、憲法上の政教分離原則に関わる問題だと、広く日本のキリスト教会全体の協力による取り組みが展開された。昭和天皇に関しては事前に「Xデー」と称して、その死去にどう対応するかを、日本社会全体が備えていた面もあった。キリスト教会でも新天皇即位時の大嘗祭や、天皇制そのものについて学習などを重ねていた。

昭和の最晩期、「天皇制の課題は、十戒の第一戒に関わる、信仰告白に関わる問題だ」と、日本のキリスト教会は改めて学んだのだと聞く。社会的問題でなく、信仰の問題だと多くの教会が受け止めたのであった。それから約三十年、「天皇

制は第一戒に関わる問題だ」との意識は、私たちの教会の中で深まっているだろうか。

その問いに対する答えは否であろう。深まるよりむしろ後退していると認めざるをえない。この世の力や異教に屈しないで、真の生ける神を愛し抜く、という私たちの信仰が強められるために、天皇制についても基本的な要点を、改めて、良く学ばなければならない状況がある。国家神道により神社参拝が強制されていた時代、弾圧を受けた教団教派に対して、他の教団教派は困難にある仲間を支援せずにその状況を見守ったり、むしろ弾圧する側に立った言動をする、などの事例もあった。

真の神以外のものを恐れる時に、キリスト教会内部が割れていく姿は、「隣人を愛せよ」という戒めを教会が聞き取っていない姿でもある。「神を愛し人を愛せよ」との愛の律法に生きるために、この時期に天皇制の課題を共に学び直せるように、資料作成を急ぎたい。

牧師の本棚

「聖書信仰の成熟を求めて」

神学委員会の取り組み

宮崎聖輝 神学委員
イムヌエル綜合伝道団
木更津教会

日本伝道会議（JCE6）を越え、JEA 神学委員会は新体制で活動が続けてまいりました。能城一郎師（新委員長）、千代崎備道師、山田泉師、吉川直美師、篠原基章師、青木義紀師、赤坂泉師、ドン・シェーフアー師、宮崎聖輝、油井義昭師（理事会オブザーバー）、品川謙一総主事が集い、会合を重ねております。集った先生方はみな教団教派、それぞれの神学校で活躍されている先生方で、交わりは大変実りの多い、良き研鑽のときです。

今、委員会は新しい体制になったことで、これまで神学委員会が築いてきたものを、もう一度学び直して互いの理解を深める時をもっています。さる 1 月 28 日～29 日の代々木合宿においては、それぞれの先生方が今、取り組んでいる課題や関心事をプレゼンテーションして下さいました。その発表は大変興味深く、今日の課題に直結する内容ばかりでした。具体的には、聖書信仰の成熟と福音主義の進むべき方向性、ポストモダンイズムと聖書信仰、LGBT の課題に直面している米国教会の動向、大嘗祭、そして新改訳聖書 2017 発行にあたってのリスパンスと新しい聖書協会訳の紹介などです。これから、こういった関心事を手がかりにしながら、進むべき方向性を探っていきたく願っています。また神学委員会が昨年発行したブックレット「聖書信仰の成熟を目指して」の浸透も忘れずに視野にいれながら活動が続けていきたく願っています。

さしあたって今回の合宿で、特に委員会が注目したテーマは、「原理主義」でした。かつての同時多発テロで米国は、タリバン政権打倒、フセイン政権打倒と一気にイラク戦争へと向かっていきましたが、その背景にかなりの福音派の支持があったといえます。今回、共和党のトランプ大統領が就任してから、エルサレムの首都宣言など過激な発言が続いていますが、NHK のクローズアップ現代（1 月 25 日）によるとその発言の背景に、やはり米国福音派の圧力があるとの報道がなされました。今、日本ではどうしても「福音派」ということばがマイナスのイメージ（＝キリスト教原理主義）で捉えられがちですが、この状況に対し、私たち日本の福音派がどう応答するのが再び問われているように思います。そんなことから、次回の委員会では、まずは積み上げてきた議論、ブックレット No.6「原理主義」（2006 年）をテキストに学びの時をもちます。これからも神学委員会が、迫り来る現代の課題を聖書的、神学的視点で捉えなおし整理して、教会の宣教に少しでも貢献できるようお祈りいただけたら幸いです。

最後に、JEA 神学委員会が、2016 年と 2017 年の 2 回にわたり、社会委員会と合同セミナーを開催したことを追記致します。神学委員会からは関野師、青木師、吉川師を講師として派遣しました。このセミナーの様子については、社会委員会からの報告をご参照ください

JEA 社会委員会

聖書信仰と信教の自由セミナー開催

小岩井信 社会委員
日本同盟基督教団 子母口キリスト教会

2017 年「信教の自由セミナー」が 11 月 24 日、聖契神学校にて開催されました。今年は「聖書信仰と信教の自由 2」ということで、予定通りに昨年に続けての神学委員会との共催でした。

まず高木実牧師による説教「この国は主を見捨て」（ホセア



1:1-3) を通して、パアル宗教と大変よく似た「大嘗祭」なる宗教行事をかつて国家を挙げて行いそしてまた再び行いかねない状況の日本について、「この国は主を見捨て、はなはだしい淫行にふけている」状態ではないか、との主からの語りかけを聴きました。

発題は、神学委員会から、まず青木義紀師が「宗教改革における『聖書信仰』と『信教の自由』」と題し、ルターとカルヴァンを挙げて「聖書信仰」と「信教の自由」の問題を 16 世紀宗教改革の文脈から語って下さいました。次に吉川直美師が「天皇の代替わりと神学」と題し、大嘗祭について日本国憲法の観点からそして「第一戒と第二戒に反する」という聖書の観点からの問題点（天皇制も含めて）等を提示して下さいました。

続けて、社会委員会から、まず須田毅師が「聖書信仰と大嘗祭（天皇の代替わり）—ふたつの大嘗祭の狭間に置かれているキリスト者、牧師として考える」と題し、実際の牧会の現場に

あって「天皇制について、キリスト者、牧師として歩んでいる自らを起点に考え」ていることを語って下さり、来たる天皇代替わりを見据えての今後の取り組みとして、教会の課題として天皇制を視野に入れて学び続けること、聖書に学び続けること、歴史に学び続けること、対話も続けること等を提言して下さいました。次に野寺恵美師が「聖書信仰と抵抗権」と題し、キリスト者の「抵抗権」行使は世の為政者を超える神への信仰（それは即ち服従）・聖書を文字どおり信じる「聖書信仰」によってなされること、時代に流されずに神のことばである聖書をもっと真直ぐに語る説教者の養成が必要なこと、教会が神から委託されている霊的な剣の権能を用いて祈り行動し更によく学ぶべきこと、「抵抗」している牧師・信徒たちが教団を超えて手を組んで助け合い励まし合うべきこと等を語って下さり、最後に、教会が政治に関わる「神学」を深めていくこと、内外の反対・逆風にめげずに語り・教え続けていくこと等を提言して下さいました。

以上、報告とさせていただきますが、もとよりこの限られた紙面と筆者の力量では今回のセミナーの多くの貴重かつ有益な内容をどれほど的確に報告できたか心許無いものがあります。ですから是非とも「報告書」をお買い求めになって、「はたしてそのとおりかどうか」、信教の自由セミナーの全体を把握して下さいますように。そして関心をもって下さり、可能な方は次回以降の信教の自由セミナーには是非ご参加くださいますようお願いいたします。

ネパール支援報告・国内災害対策フォーラム

村上正道 援助協力委員長
JECA 湘南キリスト教会

2015年4月25日にマグニチュード7.8の地震がネパールを襲いました。さらに三週間も経たないうちに余震が襲い、最初の地震で不安定になった丘の上の建物やぐらついたがれきを崩落させました。この地震により約9,000人の人が亡くなり、50万戸以上の家屋が崩壊したと言われています。

援助協力委員会は、NCFN (National Christian Fellowship of Nepal) を通じてこの地震に対する支援を決め、献金を呼びかけましたが、それに対して約847万円の献金が集まりました。最初は、仮設住宅建設のための支援金を送りましたが、政府の方針転換により、住民からの要請があるにもかかわらず仮設住宅を建設することができなくなってしまいました。それでNCFNは、地震により全壊した小学校の再建を決め、JEAに献金を要請しました。この小学校は、Shree Thumkee 小学校で、首都のカトマンズから南東にあります。この小学校は、ふもとから歩くと2時間以上かかる山の頂上にあります。全校生徒は約100人で近くのいろいろな村から通って来ています。そして、学校の先生方を始め、親や子どもたちも学校が再建され、



再び子どもたちが元気に登校できることを待ちわびていましたが、土砂崩れにより車でレントなどの建設資材を運べなくなり、校舎の建設が大幅に遅れています。本来であれば、昨年の8月あたりには完成予定

と聞いていましたが、現在もなお建設中です。1日も早く校舎が再建されて、子どもたちが学校へ通えるようにお祈りいただければと思います。



ネパールは、野党の反対により政策が進まなかったり、頻繁に政府が変わったりする中で、人々は国家に頼ることはできませんし、世界で二番目の最貧国と言われています。そのような中で、史上まれに見る大規模な地震が起こり、人々が途方に暮れている中で、NCFNは災害を通して人々に寄り添い、ヒンズー教徒と仏教徒がほとんどで、クリスチアンは全人口の約5%とされている国にあって、神様の愛を人々に証ししようとしています。彼らの働きのためにも、ともに祈りの手をあげてくださればと思います。

そして、日本におきましても、各地でさまざまな災害が発生し、多くの被害が報告されています。また南海トラフ地震や首都直下型地震の発生による甚大な被害が予測されています。援助協力委員会では、第三回国内災害対策フォーラムを9月4日(火)午後2時から5時までの予定で開催することになっています。今回は、現在の委員会のメンバーが被災した時の様子を語ってくださいます。そのことを通じて実際に災害が起こった場合、どのように対処すればよいか、ともに考える時とさせていただきたいと思っています。ぜひご参加ください。

JEA 創立 50 周年記念礼拝・感謝会

2018年4月23日(月)、お茶の水クリスチャンセンターにて、JEA 創立 50 周年記念礼拝・感謝会が開催され、歴代の理事長・理事、総主事、専門委員会委員長、加盟教団・教会・宣教団体代表者など関係者 130 余名が集いました。

廣瀬薫理事長は、JEA の標語「心を一つにして 福音の信仰のために 力を合わせて戦い」(ピリピ 1:27) が新改訳、口語訳の訳語を合わせたものであることを指摘し、この言葉を絆として、さまざまな違いを乗り越えて福音の信仰のために一致してきたのが JEA50 年の歩みであり、「福音の信仰のために」と

いうベクトルは鮮明に、スタンスは広くとり、一致と宣教の前進のために一歩、一歩を積み重ねて行きたい、と語られました。

「この 10 年の歩み」として、中島秀一元理事長は「日本の教会はいまだ開拓期と認識し、一丸となって救霊宣教に励むべき」と、中台孝雄前理事長は「東日本大震災などの災害対応を通して繋げられた協力関係を活かし、特に若い世代が福音宣教のために協力できるよう後押ししたい」と語られました。

日本キリスト教協議会 (NCCJ)、日本ペンテコステネットワーク (JPN) からそれぞれ祝辞が寄せられました。





東海地域の宣教協力について語る末松隆太郎師



JCE7 東海地域開催決議を受けて



青年宣教のビジョンを語る高田聡毅青年委員長

第 33 回 JEA 総会が開催され、第 7 回日本伝道会議 (JCE7) を 2023 年、東海地域で開催することが決議されました。

第 33 回日本福音同盟 (JEA) 総会は、2018 年 6 月 4 日～6 日、静岡県掛川市で、諸教団・教会、諸宣教団体から約 140 名が参加して開催されました。

一日目夜の集会では、「東海地域の宣教協力の歴史」と題して、末松隆太郎師がこれまでの東海地域での宣教協力の流れを概観し、秋山直光師が東海福音フェローシップ (TEF)、東海宣教会議 (TOCOME) の紹介、鴨下直樹師が東海聖書神学塾の紹介、羽鳥頼和師、内村保師、内山勝師が JCE7 に向けての期待を語られました。

二日目午前の議事会で「2023 年に第 7 回日本伝道会議 (JCE7) を東海地域で開催する。」との決議が承認され、東海地域の先生方からの挨拶の後、前開催地、神戸の開催地委員長であった大嶋博道師が JCE7 開催に向けての祝福を祈られました。開催地の名称を「名古屋」ではなく「東海地域」としたのは、東海福音フェローシップ (TEF) などこの地域の宣教協力は「名古屋」ではなく「東海」の名称でなされてきた経緯があり、その流れを活かしたいという地域教会の先生方の要望によるものです。

二日目午後には「JCE7 テーマ、理念に関するグループディスカッション」を 16 の小グループで行い、テーマ、運営方法、財政、名称などについて活発な意見が出されました。これらの意見は JCE7 準備室で集約し、JCE7 テーマ、理念策定に生かされています。

二日目夜は、11/22～24 に開催される第 2 回日本青年伝道会議 (NSD2) に向けて、宣教委員会が取り組んでいる次世代宣教ネットワーク構築に関する研究発表、青年委員会からの NSD2 に関するプレゼンテーションがありました。「神の国マインドに生きる」をテーマに、中高生、青年、青年担当者たちが教派教団をこえて一堂に会し、主なる神様が今、この地に、この世代に語りかけておられる御声に耳を傾け、共に手を携えて宣教のチャレンジに応える時となるよう、祈りを合わせていきましょう。

2018 JEA 宣教フォーラム @東海

Mission Forum in Tokai area

Theme
東海地域で築きあげられてきた「ゆるやかな宣教協力」から多くのことを学ぶことができます。

日時：2018 年 9 月 24 日 (月・振替休日) 13:00～9 月 25 日 (火) 12:30

会場：在日大韓基督教会名古屋教会 with キリスト聖書神学校 (CBI)

登録料：両日割 3,000 円、一日のみ 2,000 円 ※当日現金支払、席上献金あり

申し込み：JEA ウェブサイト (<https://jeanet.org/>) から申し込んでください。(9/10 締切)

プログラム詳細はウェブサイトをご覧ください。分科会 (25 日 9:30～10:45)：

- ①聖書信仰の成熟を求めて、②教会と地域を結ぶ新たな宣教モデル～「ふくし」を通して地域に「見える化」する～、③教会と「国家」、④持続可能な社会の構築、⑤ディアスポラ宣教協力、⑥ビジネス宣教協力の次世代構想～共創による文脈形成を支える宣教協力～、⑦痛みを担い合う教会～東日本大震災からの宿題、⑧青年宣教
- (分科会は申込時に選択してください)

JEA 総務局から

- ◆最近、総務局で備蓄していた非常食を新しいものに交換しました。日常の備えを改めて考えさせられます。先日的大阪北部地震で被災された教会、地域の方々の生活復興のためにお祈りいたします。
 - ◆JCE7(第 7 回日本伝道会議・2023 年)に向けて、JCE 準備室を中心に、東海地域の世話人の先生方と共に準備がスタートしています。諸準備と JCE6 各プロジェクト推進のためにもお祈りとご協力をお願いします。
- 郵便振替：00160-5-483905 加入者名：日本伝道会議



日本福音同盟

心をつなげて福音の信仰のために力を合わせて戦い (ピリピ 1:27)

JEA ニュース 52 号 発行・日本福音同盟 (JEA)
 発行者：廣瀬薫 編集者：品川謙一
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC 内
 TEL：03-3295-1765 FAX：03-3295-1933
 email：adminoffice@jeanet.org
 郵便振替：00150-8-68442 (口座名義：JEA)